

新型コロナウイルス感染症拡大下における母性看護学実習 ～マトリックス方式による文献検討～

Maternal Nursing Practice under the Spread of New Coronavirus Infection ～ Literature Review by Matrix Method ～

上西 由美, 村井 美侑, 久保 貴巳子

Yumi KAMINISHI, Midori MURAI, Kimiko KUBO

(神奈川歯科大学短期大学部 看護学科)

キーワード：母性看護学実習 代替実習 新型コロナウイルス感染症拡大

はじめに

2019年に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19とする）は、世界中に猛威を振るい、わが国においては2020年4月7日に緊急事態宣言が発令された。パンデミックという未曾有の事態において、医療現場では感染拡大防止、医療逼迫、マンパワー不足から臨地における看護学実習は中止・縮小を余儀なくされた。一般社団法人 日本看護系大学協議会 看護学教育質向上委員会 による『2020年度 COVID-19に伴う看護学実習への影響調査結果』では、回答が得られた看護系大学250校のうち臨地における看護学実習の中止が生じたのは74.1%であったと報告している。実習施設の変更、実習施設ごとの学生人数の縮小などの調整が困難な場合、臨地における看護学実習の代替として学内実習へ変更を行った割合は80.1%であった。また専門領域別にみると、母性看護学(86.0%)で最も学内実習へ変更した割合が高かった。母性看護学実習の現場である産科施設では、対象である母児への感染防止対策の観点から看護学実習の受け入れを中止する施設は多く、以前より少子化で実習施設の確保が困難である母性看護学実習はCOVID-19感染拡大により、更なる影響を受けることとなった。

COVID-19流行開始から三年目を迎え、臨地における看護学実習の制限は緩和されつつある。しかし、依然としてCOVID-19流行が終息する目途は立っていない。各大学ではCOVID-19流行開始以降、実習内容は様々な工夫を凝らしながら代替実習が展開されていると推測するが、その詳細は明らかではない。そこで、今後の自校の実習の在り方について検討する資料とするため、COVID-19流行下で行われた母性看護学実習について文

献検討を行う。

I. 研究方法

1. 研究目的

COVID-19感染拡大下で行われた母性看護学領域の代替実習の実際（実習形態・教育方法・教育内容）を明らかにする。

2. 用語の定義

本研究においては、COVID-19感染拡大により臨地実習が行えず、代替えとして臨地以外の場所や方法を駆使して遂行した実習を代替実習と定義する。また、代替実習の形態を以下の3つに分類し定義する。

【学内実習】：学内にて対面形式で行う実習。

【遠隔実習】：パソコンなどの電子機器とオンラインツールを用いて学外から遠隔で行う実習。オンライン実習、リモート実習と同義。

【ハイブリッド実習】：学内実習と遠隔実習を組み合わせで行う実習。臨地実習と学内実習の双方を経験した場合をハイブリッド実習と表記している文献も散見されたが、本研究においては臨地実習が中止となり、代替として学内実習と遠隔実習の双方を組み合わせ（混合して）実施した場合をハイブリッド実習と定義する。また臨地実習時期により、実習開始前から臨地実習中止となり代替実習を履修した学生と、実習開始後に臨地実習が中止となり途中から代替実習を履修した学生がいるため、COVID-19流行下で看護学実習を履修した学生を以下の2群に分類し定義する。

臨地主体群：臨地実習時間が代替実習時間を上回る学生
学内主体群：学内・遠隔・ハイブリッド実習など、代替実習が臨地実習時間を上回る学生

受付日 2022年12月23日

受理 2023年2月10日

3. 研究デザイン

文献研究

4. 研究期間

2022年10月20日～2022年12月20日

5. 倫理的配慮

本研究に使用する文献は、著作権の侵害が生じないよう全ての文献の出典を明らかにした。また著者の記した内容を損なうことがないよう努め、引用した。

6. 文献の抽出方法

Web検索システムのうち、国内文献を多く取り扱う医学中央雑誌およびCiniiにて、「看護、実習、母性、COVID-19、コロナ」の5つのキーワードを用いて検索した。文献は代替実習について知見を得るため、論文に限定せず、雑誌、紀要掲載の実践報告・解説・資料を含めた（図1）。

7. 分析方法

検索した文献を精読した上でマトリックス方式（Garrard, 2010）を用いて、2種類のレビュー・マトリックスを作成した。母性看護学領域の代替実習について総括するためのマトリックス（表3）は、実習形態および教育方法・内容の視点で作成した。母性看護学領域に関する研究について総括するためのマトリックス（表4）は、研究目的・対象・方法・結果・考察の視点で作成した。

II. 結果

1. 母性看護学領域の代替実習に関する文献概要

日本でCOVID-19流行が開始した2020年以降に発行された本研究に関連する文献を「看護、実習、母性、COVID-19、コロナ」のキーワードを用いて検索した結果、Web検索システム上には最多で58件がヒットした。58件のうち本文にアクセス可能な文献をすべて精査、そのうち助産学実習に特化した文献、および抄録のみが公開されている文献は除外したところ、本研究の目的に合致する文献として17件が抽出された（図1）。

発行年による分類では、本研究では、COVID-19流行開始した2020年以降を文献検索範囲としたが、文献が発行されていたのは本感染症の流行が始まった翌年の2021年が最も多かった（表1）。

文献種別による分類では、研究論文5件、実践報告6件、解説4件、資料2件であった。

2. 母性看護学領域の代替実習の実際

文献から明らかになった母性看護学領域の代替実習の概要を以下にまとめる。

表1 COVID-19 流行下の母性看護学実習に関連した文献数

実習形態	2020年度	2021年度	2022年度
学内実習（8）	0	2	1
遠隔実習（9）	0	4	0
ハイブリッド実習（3）	0	8	2
年度別文献発行数	0	14	3

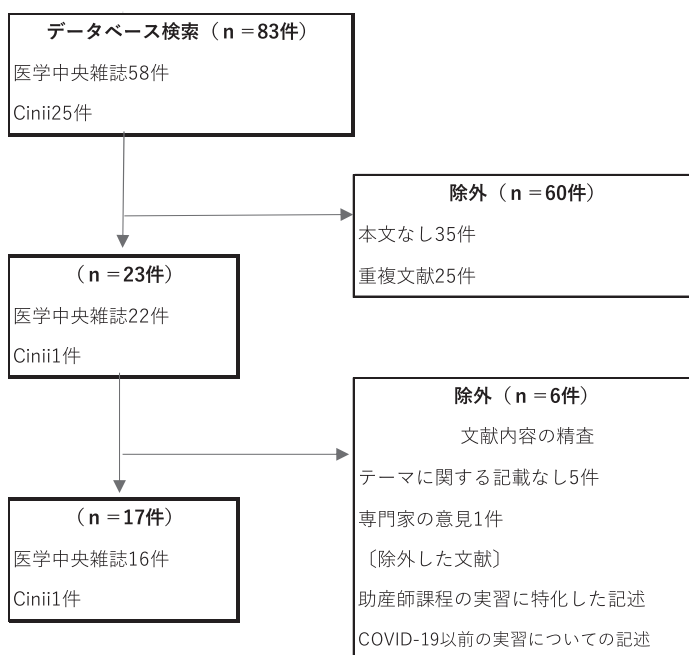


図1 文献検索の手順

1) 実習形態

臨地実習の受け入れが困難となった場合に行われた代替実習の形態は、大きく分類すると【学内実習】、【遠隔実習】、【ハイブリッド実習】の3つに分類された。中でも文献による報告数が最も多かったのは【ハイブリッド実習】であった。

2) オンラインツールの活用

感染防止対策として非対面式で実習を行う際には、オンラインツールを使用して行っていた。使用されたオンラインツールは、以下の5種類が確認された(表2)。Zoomが4件、次いでGoogle meetが2件、Teams、Webex、LMSが1件、不明5件であった。

オンラインツールの活用方法について概観すると、病院と臨床をオンラインツールで繋いだ場合では、病棟管理者の実習オリエンテーションの実施1件、患者へのインタビューの実施2件、臨床の看護師へのインタビューの実施1件、臨床指導者のカンファレンスへの参加1件が報告された。また学校と自宅をオンラインツールで繋いだ場合では、アセスメントの指導1件、カンファレンスの実施1件、実習記録の提出1件などが報告された。

3) 教育方法

母性看護学領域の代替実習について明らかにするため、文献から読み取ることができた実習方法を表3に示した。教育方法としては、看護過程の展開が最多であり、さらに患者理解を促進するための教育方法として、シミュレーション演習、ロールプレイを併用していた。なお、シミュレーション演習やロールプレイの患者役は教員が担当しており、模擬患者の導入は見られなかった。その他、臨床で見学するケアについて教員が演示、母子を取り巻く環境について調べる地区踏査などが実践されていた。また、臨床判断能力試験OSCE (Objective Structured Clinical Examination)の手法を取り入れた実践例が1件報告されていた。

4) 教育内容

看護過程の事例は、産褥期および新生児期の紙上事例が最多であった。二週間の実習期間で、看護過程の展開には1事例～2事例の紙上事例を用いていた。妊娠期および分娩期の事例で看護過程を展開した実践例は限られており、紙上事例よりも教育用DVDやドキュメンタリー映画などの視聴覚教材を用いていた。

物的環境では、妊婦検診や分娩期の看護について学ぶ周産期シミュレーター、母乳育児支援に関する技術を学ぶ搾乳モデル、臨地に近い形で学べるようにと臨床と共

同で開発した模擬電子カルテなどが活用されていた。

3. 代替実習に関する研究

2022年10月20日現在で発表された、COVID-19感染拡大下における母性看護学実習に関する研究5件についてレビュー・マトリックスを作成したところ、代替実習について研究結果を公表した文献は5件であった(表4)。研究方法は、質的研究が4件、量的研究が1件であった。研究に使用したデータは、実習後に行われた質問紙調査(授業評価アンケート)や実習まとめレポートであった。質的データの分析にはテキストマイニングソフト(KHcoder)、量的データの分析には統計解析ソフト(SPSS)が用いられていた。

学生を臨地主体群と学内主体群の二群に分けた上で、実習満足度や目標到達度について比較した文献は2件であった。研究の結果、文献1では臨地主体群に比べ学内主体群では学習意欲、実習満足度、到達度が低くなる傾向と結論付けられていた。一方、文献2では、臨地主体群と学内主体群の目標到達度に大きな差は生じておらず、代替実習では実習目標に則した意図的な学習が可能であると結論付けられていた。

Ⅲ. 考察

1. COVID-19感染拡大下の母性看護学実習に関する文献の動向

COVID-19感染拡大下で行われた母性看護学実習に関する文献の動向をみると、COVID-19流行開始(2020年)の翌年(2021年)に最も多く発行され、2022年は減少していた。これまでに発行されている文献は、COVID-19の流行が開始して1年目(2020年)の実習について記述されたものであるため、2年目(2021年)以降の実習に関する文献は、これから発行されるものもあると考えられる。

文献種別では実践報告が最も多かったが、今後は代替実習の教育評価に関する文献も発表されるものと推測する。COVID-19流行当初は、感染症の専門家さえ数年で終息すると推測していたことから、教育現場では以前と同様に制限なく臨地で看護学実習を行える状況に戻る日は、そう遠くはないはずだと期待していた。しかし、3年近くが経過した現在もCOVID-19終息の目途は立っていない。現状に甘んじることなくCOVID-19感染拡大下における看護学実習の在り方を今こそ検討する時期に来ていると考え、引き続き文献の動向に注視していきたい。

表2 オンライン実習に使用したツール

ツール	Zoom	Google meet	Microsoft Teams	Webex	LMS	不明
文献数	4	2	1	1	1	5

表3-1) 母性看護学 代替実習に関する実践報告

文献番号	著者(発行年)	タイトル(出典)	代替実習の形態/教育方法・内容
1	上野典子, 他 (2022)	Covid-19禍における母性看護学実習の学生の実習満足度・到達度の関係-臨地実習時間減少から生じた課題の分析 第1報 (了徳寺大学研究紀要)	【学内実習】 事例について、シミュレーターを活用した妊婦健康診査を実施、分娩期看護のDVD視聴と分娩の模擬体験、模型胎盤の計測・観察、シミュレーターを活用した褥婦の健康診査を実施、新生児モデルを活用した沐浴・哺乳介助・あやし方、新生児モデルと乳房モデルを活用した授乳姿勢とラッチオンの模擬体験 ドキュメンタリー映画DVD「生まれる」を活用した討議 「地域における母子保健活動と医療チームの連携」カンファレンスによる討議
2	坂村佐知, 佐藤理恵 (2022)	看護学実習における臨地実習を受けた学生と学内実習を受けた学生の学びの比較 (研究紀要青葉Seiyo 第14巻 第1号) 原著論文	【学内実習】 看護過程1事例、妊婦・産婦・褥婦・新生児のフィジカルアセスメント、退院支援発表 母子支援施設の見学あり 学びの会(実習まとめ)
3	宝田慶子, 他 (2021)	オンラインによる母性看護学実習の実践内容と今後の課題~授業後アンケートの分析から~(創価大学学士課程教育機構研究誌) 事例報告	【遠隔実習】 Zoomを活用した同期型のオンライン実習 事例:経膈分娩1例(妊娠期・分娩期・産褥期)、帝王切開1例 動画資料や教員によるロールプレイを通し対象者の反応がわかるよう工夫 看護過程の展開や看護技術が学べるよう、能動的に取り組めるようグループワークを多用
4	早瀬麻子, 木下順子, 田尻后子 (2021)	オンラインでの母性看護学実習における学習効果 (佛科大学保健医療技術学部論集) 研究報告	【遠隔実習】 Google meetを使用したオンラインでの同時双方向型の実習 看護過程の展開、看護技術チェック、カンファレンス パースプランと出産場所についてのディベート
5	前山直美, 青木真希子, 松沢祐子 (2022)	COVID-19状況下における母性看護学実習形態変更による学生の学び (神奈川工科大学研究報告) 研究論文	【ハイブリッド実習】 シミュレーターを活用した妊婦健康診査 ドキュメンタリーDVDを活用
6	村井美俘, 他 (2021)	母性看護学実習の取り組み~臨地から学内へ~ (神奈川歯科大学短期大学部紀要) 資料	【学内実習】 母性看護学実習を臨地実習から学内実習に変更した取り組みから得られた可能性と今後の課題について報告 学内での滞在時間を制限しながら2週間の学内実習を実施 正常と異常の母児2事例(経膈分娩1例、帝王切開1例)の看護過程を展開 シミュレーターを活用した演習 実習病院を想定した行動計画発表~ケア~報告まで実施
7	金井寿幸, 他 (2021)	コロナ禍実習中止による母性看護学Online実習の取り組み (大和大学研究紀要)	【遠隔実習】 Google meetを活用し、グループ学習を促進 実習場面としての観察・ケア実施映像(教員がロールプレイ)から情報を得ながら看護過程の展開を記録 Conference roomで班ごとに保健指導案を発表
8	藤元佳奈, 他 (2021)	コロナ禍における母性看護学実習での協働~医療機関としての取り組み~ (看護教育) 実践報告	【遠隔実習】 病棟紹介動画を用いた実習前オリエンテーションを実施 実習病院として受け持ち紙上事例を提供、総合周産期母子医療センターに特徴的な事例の作成 ①高齢妊娠、生殖補助医療②妊娠高血圧腎症③早産(母児愛着形成、親役割獲得、地位連携の支援を含む) 模擬電子カルテシステムを構築し、一連の経過や情報に矛盾がなく忠実性が高いことでリアルティを実現、オンライン指導(臨床指導者のカンファレンスへの参加) コロナ禍での現場のリアルを一部紹介 搾乳トレーニングモデル(シミュレータ)の活用
9	千葉陽子, 他 (2021)	コロナ禍における母性看護学実習の試み (京都看護大学紀要) 実践報告	【ハイブリッド実習】 地区踏査(学生自身の居住地周辺の母子関連施設を抽出、マッピング、詳細を調べ地区踏査計画を立案し、実際に地域を巡り各施設の観察、結果をカンファレンスで共有 病院との遠隔接続による実習、看護過程の展開を学内で実施し、遠隔で指導者より助言を得る機会を設けた。助産所や対象者宅からも映像配信の協力あり(Webexを活用)

表3-2) 母性看護学 代替実習に関する実践報告

文献番号	著者(発行年)	タイトル(出典)	代替実習の形態/教育方法・内容
10	畑登美子 (2021)	コロナ禍における母性看護学実習での協働～医療機関としての取り組み2～ (看護教育) 実践報告	【ハイブリッド実習】 医療機関(総合周産期母子医療センター NICU/GCU)として、オンライン実習の事例作成(緊急帝王切開、早産、低出生体重児、人工呼吸管理を必要とする児と精神疾患を持つ母の事例) 遠隔会議システムを用いて、学生を退院支援カンファレンスに招待 オンラインツールを用いて沐浴指導の見学ができるよう設定
11	槻木直子, 他 (2021)	コロナ禍における母性看護学実習での協働～教育機関としての取り組み～ (看護教育) 実践報告	【ハイブリッド実習】 遠隔と対面の併用(学生の希望により双方に対応) 臨床との連携 "臨床オンライン"では、カンファレンス、健康教育ロールプレイ Zoomインタビュー(育児当事者へのインタビュー)、 看護計画を見直すためのミニロールプレイと振り返り 模擬電子カルテシステムの活用
12	松原まなみ, 他 (2021)	コロナ禍における母性看護学実習の展開～ハイフレックス型授業による実習代替授業の取り組み～ (助産雑誌) 実践報告	【ハイブリッド実習】 学内対面と自宅オンラインを組み合わせた実習プログラム LMSであるWebClassとZoomで実施 ペーパーペイシェントではなくストーリー性のある教材DVDを使用 代替実習では一事例についてグループメンバーでじっくり考えながら意見交換でき、かつ教員のフィードバックの時間も豊富で、より深い事例検討が可能であった。 臨地実習では、現場での経験による目標への到達は偶発性に依存する面が多いが、今回実施した方法では実習の進捗と到達目標に合わせてLMSの中に映像教材や課題を段階的・系統的に組み込むことができる。
13	立山久美 (2021)	コロナ禍の経験をふまえたこれからのシミュレーション教育 福岡県私設病院協会看護学校のシミュレーション教育を活用した代替実習の試み (看護教育) 特集	【ハイブリッド実習】 以前からポートフォリオによる学びの可視化、シミュレーションを取り入れていた。 学内実習とMicrosoft Teamsを活用した遠隔実習 パワーポイントを用いて遠隔で病院オリエンテーションを実施 臨地実習で見学する内容(妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護)は教員がデモンストレーション、褥婦の観察場面のシミュレーションを学内で実施
14	橋本由起子 (2021)	コロナ禍における専門学校での母性看護学実習の取り組み OSCEの手法を用いた学内実習の展開 (助産雑誌)	【ハイブリッド実習】 遠隔での事例展開と学内でのシミュレーション演習、客観的臨床能力試験(OSCE)の3つを取り入れた実習プログラム DVD教材「母性看護のためのアセスメント事例 Vol.1 初めての赤ちゃんを育てる 産科退院後の生活」を活用し事例展開 OSCEの手法を活用したことで、コミュニケーションや臨床判断の実際を学ぶきっかけをつくることができた。
15	東尾公子 (2021)	コロナ禍における母性看護学学内実習の実践報告 (宝塚大学紀要) 資料	【ハイブリッド実習】 半日の学内実習と半日の遠隔実習 シミュレーション教育に基盤を置いたハイブリッド実習 妊娠期・産褥期・新生児期の看護過程展開とシミュレーション 分娩期の学習はICT教材を活用
16	戸村好未 (2021)	コロナ禍における母性看護学実習の工夫と評価 (看護教育) 実践報告	【ハイブリッド実習】 臨地実習、学内実習、遠隔実習を組み合わせた実習プログラム 産科病棟での実習2日間あり 学内技術演習、紙上事例による事例課題、オンラインでのカンファレンス 分娩当日から産褥期の経日的変化をイメージできるよう、写真やカルテ様式のデータで提示、ロールプレイ演習の実施
17	下田佳奈, 他 (2022)	Simulation-Based Online Programを用いた周産期看護学実習の実際 (聖路加国際大学紀要) 短報	【遠隔実習】 実習でのSimulation-Based Online Program使用の実際について報告 学内技術演習(1日間)⇒オンライン継続実習(5日間)⇒選択実習(4日間) オンライン継続実習では、学生一人につき一組の母子の事例を受け持つ Simulation-Based Online Programの場合、オンラインでも看護過程展開に十分な情報が得られる、時間をかけて看護過程に集中できる点が利点、一方、対象者との双方向の会話が乏しい、実習の臨場感には欠けるという声もあり。今後の課題は、臨地での実習とオンライン実習の効果的な複合の検討、模擬患者人材の確保。

表4 COVID-19感染拡大下における母性看護学実習に関する研究

文献番号	著者（発行年）	タイトル（出典）	研究目的	研究対象/方法（分析ツール）	結果/考察
1	上野典子, 大沢豊子, 森田桂子, 他 (2022)	Covid-19禍における母性看護学実習の学生の実習満足度・到達度の関係－臨地実習時間減少から生じた課題の分析 第1報（了徳大学研究紀要）	Covid-19禍における母性看護学実習の学生の実習満足度・到達度の実態を知り、臨地実習時間減少から生じた母性看護学実習の課題を明らかにする。	看護系大学生78名/質問紙調査（SPSS）	学内実習主体群は臨地実習主体群に比べ相対的に学習意欲や実習満足度・到達度がやや低くなる傾向がみられ、臨地実習時間の減少したことによる影響と課題が示唆された。
2	坂村佐知, 佐藤理恵 (2022)	看護学実習における臨地実習を受けた学生と学内実習を受けた学生の学びの比較（研究紀要青葉Seiyo 第14巻 第1号） 原著論文	母性看護学実習において臨地実習を受けた学生と学内実習を受けた学生の学びを比較し、学びの内容が実習目標に基づいた内容であったか、自由記載レポートを用いて評価する。	看護系短大生81名/自由記述のまとめレポートをテキストマイニング分析（KHcoder）	学内実習群は看護過程の展開のように模擬患者でも実践可能な内容に関する記述が多く、臨地実習群では五感を使って経験した内容に関する記述が多いという特徴がみられた。 学内実習群と臨地実習群で実習目標に使用された語句の使用頻度を比較すると、両群で6つの実習目標全てに関連した記述があり、学生が実習目標達成の視点を持ち学修できたと考えられた。学内実習群では、学生に学修してほしい内容を意図的に設定することで目標を網羅した学びが行えていた。 今後は学内実習では経験しにくい内容の学修方法を検討し、学生への平等性を担保した実習内容の検討が必要である。
3	宝田慶子, 二村文子, 片岡優華, 他 (2021)	オンラインによる母性看護学実習の実践内容と今後の課題～授業後アンケートの分析から～（創価大学学士課程教育機構研究誌） 事例報告	授業後アンケートの分析（集計とコード化）	オンラインで実施した母性看護学実習の実践内容と、学生から得られた授業後アンケートの回答を基に、オンライン実習の目標の達成度と良かった点、難しかった点を明らかにし、今後の課題を報告する。	オンライン実習の目標は、授業後アンケートの結果からおおむね80%以上達成できていた。目標達成に向けた実習内容の工夫は、学生の＜能動的に学べる実習環境＞＜効果的な共同学習＞＜充実した母性看護の学び＞につながっており、実習の充実感をもちやすくなった。また学生が＜実践を通じた学び＞が不十分と感じており学内実習等で補う必要性が示唆された。
4	早瀬麻子, 木下順子, 田尻后子 (2021)	オンラインでの母性看護学実習における学習効果（佛敎大学保健医療技術学部論集） 研究報告	母性看護学実習におけるオンライン実習の学習内容は、学習効果として対象理解や看護ケアに繋がりが、実習目標を達成できるものであったかを明らかにする。	看護系大学生61名/オンラインアンケート調査	1. オンライン実習はウェルネス志向での看護過程の展開や母子を取り巻く社会資源の学習や発表、分娩場所についてのディベートから多くの学びがあり、グループダイナミクスを生かし、妊娠から産褥期まで経時的に母性を理解することができていた。2. オンライン実習は実習記録のやり取りが容易にできたが、実習時間の配分について適切でなかったと考える学生や、対象者との信頼関係を築く方法についてあまり理解できていなかった学生が多かった。3. Google meetでの看護技術チェックについての分類項目は＜学習課題の明確化＞＜対象をイメージする＞点については効果的であり、一方では＜言葉で伝える難しさ＞を感じ、＜PC・カメラ・電波状況の不具合＞、＜技術チェック方法の改善＞の課題があった。4. Google meetでの発表・カンファレンスについての分類項目は＜学びの共有＞や＜画面の共有＞することの利点があり、＜人数がカンファレンスに影響＞＜話すタイミングの難しさ＞＜電波の問題＞の課題がある。
5	前山直美, 青木真希子, 松沢祐子 (2022)	COVID-19状況下における母性看護学実習形態変更による学生の学び(神奈川工科大学研究報告) 研究論文		看護系大学生73名/母性実習終了時に提出されたレポート「実習を通して学んだことと今後の課題」をテキストマイニング分析（KHcoder）	各実習で共通していた学びのクラスタの特徴は「産褥経過」「授乳状況」「母親役割獲得」「愛着形成」「母子相互作用」「退院後の指導の項目」「母性看護学の特徴」である。

2. 母性看護学領域の代替実習における実習形態とオンラインツールの活用

代替実習の一般社団法人 日本看護系大学協議会 看護学教育質向上委員会 による『2020年度 COVID-19に伴う看護学実習への影響調査結果』によると、臨地実習の受け入れが困難な場合、「学内実習への変更を全体の80.1%が行っており、専門領域別にみると母性看護学（86.0%）が最も割合が多かった」ことが報告されている。また「遠隔授業形式による実習への変更を全体の64.2%が行っており、専門領域別にみると母性看護学（70.1%）の割合が最も多かった」ことも報告されている。看護基礎教育課程の新カリキュラムでは、ICT教育を柱としているが、COVID-19の流行は、今回のカリキュラム改正に先駆けICT教育の導入を促進することに繋がった。

代替実習の形態を詳しく見ていくと、文献検討の結果では【学内実習】と【遠隔実習】を組み合わせた【ハイブリッド実習】の実践例が最も多く紹介されていた。【ハイブリッド実習】は、対面とオンラインの双方の利点を生かした実習展開が可能で、教育方法により使い分けできることが特徴である。例えばオンラインツールを利用して【遠隔実習】を行う場合、三蜜を回避でき十分な感染対策となり得るが、一方で電子機器のトラブルや通信状況により実習を時間通りに進行できない可能性も生じる。複数の文献上にパソコン・カメラ・電波状況の不具合に関する意見や、シミュレーションやロールプレイを行う際に臨場感や細かい動作・会話などを十分には伝え切れないとする教員の意見が散見された。そのため、【遠隔実習】を行う場合には電子機器上のトラブルが起り得る可能性とその対応、シミュレーションやロールプレイを非対面で行う際の限界等を予め考慮しておかなければならない。その点【ハイブリッド実習】では、これらの【遠隔実習】のデメリットを【学内実習】で補完することが可能となるため、実習形態として、【ハイブリッド実習】は有効であると考えられる。

オンラインツールの活用については、“Web会議システム”の使用が8件、“学修管理システム”LMS（Learning Management System）が1件、不明（文献上に記載なし）が5件であり、“Web会議システム”の活用が多数であった。また“Web会議システム”の種類は、Zoom、Google meet、Microsoft Teams、Webexの4つが報告されていたが、活用方法の詳細については、文献から読み取ることができなかった。

3. 母性看護学領域の代替実習の教育方法および教育内容の傾向

2020年6月厚生労働省 医政局 看護課より発表された『新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師養成所における臨地実習の取り扱い等について』において、「実

習施設での実習が困難な場合、学内実習にて対象理解を深める演習の実施、および模擬患者や紙上事例を用いた看護過程の展開を通して、実習目標を達成できるよう計画すること」と教育機関における学修の質の確保について方針が明示された。COVID-19感染拡大下で行われた代替実習は、この方針に基づき構築されている。そのため教育方法の特徴として、事例を用いた看護過程の展開を中心にシミュレーション演習やロールプレイを併用することで、臨地で対象者と関わることができない学生の患者理解を促進していた。なおシミュレーション演習やロールプレイの患者役は教員が担当しており、臨地実習に近い教育効果を期待できる模擬患者の導入事例は確認できなかった。グループ単位で長期間かけて行われる領域別実習で模擬患者を導入することは困難であると推測された。これらのことから、COVID-19感染拡大下で行われた母性看護学領域の代替実習の教育方法には、事例を用いた看護過程の展開を中心にシミュレーション演習やロールプレイを併用するという特徴が明らかになった。

代替実習の教育内容には一つの傾向がみられた。それは、産褥期および新生児期の事例で看護過程を展開している点である。代替実習の教育内容は、本来行われるべき臨地実習内容を基に構築されているため、妥当な教育内容であるといえる。また妊娠期および分娩期の教育方法は、視聴覚教材の活用、技術演習、グループ討議（ディベート）、演示、地区踏査、臨床判断能力試験OSCE（Objective Structured Clinical Examination）の導入など、様々な実践例が紹介されていた。また物的環境では、演習用モデルの活用だけでなく、模擬電子カルテを用いて患者情報の提供を行うなど、臨地実習に近い形で代替実習を行う取り組みがみられた。今後、自校の代替実習を検討する際に参考としたい。

4. 代替実習における臨地での学習体験の不足の是正

代替実習を行った場合に最も懸念されることは、学習機会の公平性の問題である。感染症拡大下であっても学習機会を平等に担保する必要がある。しかしCOVID-19流行下では、母性看護学実習が行われた時期により、全実習期間あるいは一部の実習期間が代替実習に変更になった学生もいる一方、臨地実習を経験できた学生もいる。学生を臨地主体群と学内主体群の二群に分けた上で、実習満足度や目標到達度について比較した結果、学内実習主体群は臨地実習主体群に比べ、相対的に学習意欲や実習満足度・到達度がやや低くなる傾向がみられ、臨地実習時間が減少したことによる影響と課題が示唆された（上野典子他，2022）。

以前より少子化で実習施設の確保が困難な母性看護学実習は、COVID-19感染拡大により更なる影響を受けた。前掲の調査結果では「実施不足への懸念」が挙げられて

おり、COVID-19感染拡大下で行われた母性看護学実習では、母親学級の未開催、分娩期実習の中止、新生児訪問実習の中止などにより“母子関係、親子関係成立への援助”、“シミュレーターでは学べないモニター装着、沐浴ケア等の実施・評価”、“産科・ハイリスク医療の施設、NICU等における看護職の役割”などの項目について実施不足があったと報告されている。また「学習体験の不足を是正するための対応」については、対応あり50.0%、対応なしが43.4%であった。専門領域別でみると母性看護学領域では67%で是正対応を行っていたと報告されており、他の領域より学習体験の不足の是正に努めていたことが明らかとなった。少子化が進んだ社会で育った学生たちの中で、周産期の女性や新生児と接した体験を持つ者は稀であり、本来であれば母性看護学実習が貴重な体験の機会となる予定であった。臨地での看護学実習において、学生は実際に目で見て、触れて、対象と関わる経験をすることで、一つ一つの事象について理解を深めていく。

文献検討の結果、臨地での学習体験の不足を是正するために、代替実習では様々な工夫を行っていた。その一つとして、オンラインツールを活用した育児当事者へのインタビューや学内実習に臨地実習指導者を招聘講師として迎え入れた実践報告（榎木直子，2021）がある。その他にもオンラインツールを用いて臨床と学校を繋ぎ、臨床指導者から実習オリエンテーションを受ける、カンファレンス指導を受けるなどの実践報告もあり、学生は看護の現場、看護の実際を知る機会となっていた。また臨床と学校が協働し、模擬事例の作成や模擬患者カルテの構築を行った実践例（藤元佳奈他，2021）なども報告されていた。現場の臨場感や看護実践の実際は、現場に身を置く臨床指導者が語ることにこそ意義があると考えられる。そして臨床から学内へ実習指導者を迎え入れることは、臨床現場の実際を伝えられるだけでなく、看護師としてのロールモデルを身近に拝する貴重な機会となる。今後これらの実践例のように、臨床と学校の協働が進んでいくことで、学生の職業アイデンティティの形成や学習意欲の維持・向上にも繋がると期待することができる。

IV. 今後の課題

今回、COVID-19流行下の母性看護学実習に関する文献検討を行い、臨地実習に制限がある状況での母性看護学実習の実際について明らかにすることができた。COVID-19流行当初の見解に反し現況からは今後も引き続き同様の実習環境が続いていくことが予測される。そのため、今後も臨地実習の中止や実習時間短縮等の措置により、臨地での経験が十分に行えないことを想定した上で、卒業時の到達を目指す必要がある。限られた臨地実習の機会だけに依存するのではなく、改めて母性看護

学領域全体の教育内容を点検し、より効果的な代替実習の教育方法および内容について検討すると共に、臨床と学校の協働を促進することが今後の課題である。

V. 結論

COVID-19感染拡大下における母性看護学領域の代替実習について文献検討を行った結果、以下のことが明らかになった。

1. 代替実習の実習形態では、【学内実習】と【遠隔実習】を組み合わせた【ハイブリッド実習】の実践報告が最も多い。
2. 代替実習の教育内容では、産褥期と新生児期の紙上事例を用いた看護過程の展開とシミュレーション演習を中心に構築する傾向がみられた。
3. 母性看護学領域の代替実習では、臨地実習指導者を招聘して代替実習を行うなど様々な工夫を凝らし、臨地での学習体験の不足の是正に努めていた。

おわりに

2020年にCOVID-19流行が開始して以降の約3年間で、我が国の看護学実習の在り方は大きな変化を遂げた。教育機関の役割として、この大きな変化に適応してきた経験を発信し、看護教育に携わる方々と共有することで、現状に満足することなく、看護師を目指す学生が有意義な学びを得ることができるよう、今後もより良い実習の在り方を追求して行きたい。

謝辞

今回の報告をまとめるにあたり、ご指導頂いた本学の諸先生方に深謝いたします。

利益相反

開示すべき利益相反は存在しない。

引用文献

- 一般社団法人 日本看護系大学協会 看護学教育質向上委員会, (2021) 2020年度 COVID-19に伴う看護学実習への影響調査結果 A調査・B調査報告書 2021年4月, <https://www.janpu.or.jp/wp/wpcontent/uploads/2021/04/covid-19cyousaAB.pdf> (2022年12月10日アクセス).
- 上野典子, 大沢豊子, 森田桂子, 他, (2021), COVID-19禍における母性看護学実習の学生の実習満足度・到達度の関係—臨地実習時間減少から生じた課題の分析 第1報, 了徳寺大学研究紀要, 第16号, p 271-284.
- 金井寿幸, 緒方あかね, (2021), コロナ禍実習中止による母性看護学On-line実習の取り組み 産褥母児の

- 受け持ちから退院まで大和大学研究紀要（保健医療学部編），第7巻，p27-28.
- 厚生労働省 医政局看護科，新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取り扱いについて，令和2年6月22日通達，<https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf>（2022年12月10日アクセス）.
- 坂村佐知，佐藤理恵，（2021），看護学実習における臨地実習を受けた学生と学内実習を受けた学生の学びの比較，研究紀要青葉Seiyo 第14巻 第1号，p37-49.
- 下田佳奈，岡美雪，五十嵐ゆかり，（2022），Simulation-Based Online Programを用いた周産期看護学実習の実際，聖路加国際大学紀要 8巻，p166-171.
- 高岡寿江，石堂環，藪下八重，（2021），佛教大学保健医療技術学部論集，第15号，新型コロナウイルス感染症拡大下で看護学実習に臨む学生の思い，p55-68.
- 宝田慶子，二村文子，片岡優華 他，（2022），創価大学学士課程教育機構研究誌（10），オンラインによる母性看護学実習の実践内容と今後の課題～授業後アンケートの分析から～，p31-44.
- 立山久美，（2021），コロナ禍の経験をふまえたこれからのシミュレーション教育 福岡県私設病院協会看護学校のシミュレーション教育を活用した代替実習の試み，看護教育，62巻，p518-525.
- 千葉陽子，他（2021），コロナ禍における母性看護学実習の試み，京都看護 第5号，p63-65.
- 槻木直子，他（2021），コロナ禍における母性看護学実習での協働～教育機関としての取り組み，看護教育，62巻，p1114-1122.
- 戸村好未，（2021），コロナ禍における母性看護学実習の工夫と評価，看護教育，Vol62，p970-975.
- 橋本由起子，（2021），コロナ禍における専門学校での母性看護学実習の取り組み OSCEの手法を用いた学内実習の展開，助産雑誌，75巻，p524-529.
- 畑登美子，（2021），コロナ禍における母性看護学実習での協働～医療機関としての取り組み2～，看護教育，62巻，p1126-1128.
- 早瀬麻子，木下純子，田尻后子，（2021），オンラインでの母性看護学実習における学習効果，保健医療技術学部論集 第15号，p29-44.
- 東尾公子，（2021），コロナ禍における母性看護学学内実習の実践報告，宝塚大学紀要，No.35，p189-197.
- 藤本佳奈，野牧弘子，（2021），教育機関と医療機関の協働による「これからの実習」コロナ禍における母性看護学実習での協働 医療機関としての取り組み，看護教育，Vol62，p1123-1125.
- 前山直美，青木真希子，松沢祐子，（2022），COVID-19状況下における母性看護学実習形態変更による学生の学び，神奈川工科大学研究報告，通巻46号，p11-17.
- 松原まなみ，松原朋子，遠藤俊子，（2021），コロナ禍における母性看護学実習の展開～ハイフレックス型授業による実習代替授業の取り組み～，助産雑誌，Vol75，p288-295.
- 村井美俘，石川 徳子，久保木 由美，（2021），母性看護学実習の取り組み～臨地から学内へ～，神奈川歯科大学短期大学部紀要 第8号，p29-32.
- Garrard, J. (2010), 安部陽子訳 (2012). 看護研究のための文献レビューマトリックス方式. 医学書院, p81-93.

代表著者の連絡先：上西 由美

〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82番地

TEL：046-822-9565

Email：kaminishi@kdu.ac.jp